

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200184		
法人名	有限会社 みんなの家		
事業所名	グループホームみんなの家錦織		
所在地	宮城県登米市東和町錦織字内ノ目25-1		
自己評価作成日	平成25年 2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム内に認知症デイサービスがあり、通ってくる方がいることで、ゲームや体操等をしたり、職員と送迎へ同行する楽しみにもつながっている。出来ること、出来ないことを把握し、ホーム内で行う家事や趣味活動等を生きがい作りしている。家族や友人の方の面会が多くあり、外出や外泊も自由に行われ、家族との絆も強く保たれています。新井田の施設にボランティアさんが来た時や、行事が行われる時には、見学や参加をし、天気の良い日には、予定がなくても外出し、普通の生活以上の楽しみが持てるように、支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 25 年 3 月 13 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みんなの家」は7年前から新井田地区で事業を展開している。以前から錦織地区が高齢者福祉サービスが届かないことを懸念しており、昨年7月に「みんなの家錦織」の開設にこぎつけた。運営者は普段から地元住民の老老介護や認知症について相談を受けており、地域の高齢者福祉の拠点として事業実施することに高い意識をもっている。「見た目の良さでケアの質の高さを感じてもらいたい」「大人の隠れ家のような家に」の思いが、暖炉や腰板、檜風呂、太い梁などに表れている。職員・入居者の得意なことを活動に取り入れて、介護度を感じさせない普通の生活を一緒に楽しんでいる。「ここは良いとこだよ」と入居者が言うのも頷ける。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームみんなの家錦織)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に」というワードを理念に入れ、職員も理解したうえで、業務を行っている。	皆で考えた基本理念「優しい笑顔でゆったりと」「思いやり、敬う心を忘れずに」「楽しく生き生き地域と共に」が、職員の目標カード(半年毎作成)に入居者と向き合い、笑顔を絶やさず、マンネリ化しない等に表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等に地域の方々も参加出来るようにし、施設を知ってもらうとともに、交流を図っている。	事業所の地鎮祭(餅撒き)には50人程の住民が集まった。広報紙(毎月発行)を地区の回覧板で届けている。主催する介護教室では住民の相談に応じた。ボランティアの来訪は、気功・餃子作り・踊りなど多岐で盛んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室や様々な口座を開催し、情報提供をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、会議録を通して、不参加者にも内容把握を促している。	メンバーは2地区の区長や町内会長、民生委員、住民、家族で構成されている。開設間もないこともあり、制度やサービスの取り組みへの質問が多い。市職員または地域包括支援センター職員が出席している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに入ってもらい、協力関係を保ちながら、状態を把握してもらっている。	当事業の重要性を理解した市は、当施設建設の助成をした。緩和ケアやリハビリテーション等、研修の提供・案内があり積極的に参加している。運営推進会議で、制度に関する講話をしてもらうなど連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内だけではなく、外部の身体拘束の研修に参加し、情報の共有や問題意識を常に持っている。	やりたいことを止めることはしない、その人の目線(立場)に立ってみるなどを日常のケアの中で意識している。「危険がなければ自由にしてもらう」「寄り添うケア」を基本にしており、リビングで過ごす雰囲気からも当ホームでの身体拘束は、有り得ないことが分かる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の講習を行い、知識をつけて、利用者の様子観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時に制度について研修があり、今後そのような利用者の方の利用があっても、対応できるようにしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問については早期に解決できるようにし、要望等有ればその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話を通じて、要望を聞いている。また運営推進会議にも参加して頂き、反映できる機会がある。	入居者のケアと同様に、家族に対する気遣いを重視している。家族満足度は100%が「満足」であった。「独りで散歩をさせて」の要望を受けて、目を離さず距離を置いて見守るなど安全に配慮しながら対応をした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で、意見や提案を述べる事が出来る。	外部研修や交換研修に業務として参加することで、個々の技術が磨かれている。職員の技術を自由に発揮するように促しており、入居者に合わせて食事の時間やシフトを変えるなど、意欲的に取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の状況を見極め、利用者様にも職員が、やりがいを持って就業できる姿を見せられるよう整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の知らせ等がたびたび提示され、自ら参加できる機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各職員、年間複数回の勉強会や交換研修に参加し、新しい知識や情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現状で出来ること、今後どうなりたいかをふまえて、穏やかにゆっくり生活して頂けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問題を共有し、入居後にも本人に関わっていけるような関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族はもちろん、担当していた、ケアマネージャーより、情報収集を行い、対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身で出来ることはなるべく自分でしてもらい、入居者同士でも互いに協力し、助け合って生活生活する関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	アルバムや通信を利用し、本人様の様子を知って頂くほか、面会時間を設けずに自由に来所してもらう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いたいという方がいる場合には、連絡をし、または職員が間に入り、会ってもらったり、行きたい場所にも出来る限り付き添う。	新聞購読の継続や友人宅を訪ねたり、旧知の祭りを見に行くなどしている。面会時間を調整して家族との関係継続を支援する工夫もしている。「昔から知ってるから安心」という入居者は、地縁の管理者と馴染みである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や、性格を考え、よりよい生活が送れるように支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった際にも、弔問へうかがったり、施設へ立ち寄って頂いた時に利用者様と見送りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでどのように生活してきたのかを参考にし、その都度意向を確認している。	日々のケアで「自分だったら」と置き換えることを大事にしている。自己表出の苦手な入居者の思いを汲み取り支援したことで笑顔が見れたこともある。花見の話題で「～に行ってきた」と聞けば、日を置かずに出かける。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表や会話の中から、これまでの経歴を把握し、今後の活動等に生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動の強制はせず、それぞれの生活リズムを把握し、過ごしやすいように生活してもらう。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状維持はもちろんのこと、やりがいを見つけ、状況改善に役立てたり、心地よく暮らしてもらえよう支援する。	センター方式を活用している。家族と本人の「助けてもらって安心して暮らしたい」の要望には、風邪をひかない・転倒しない・便秘をしないなどの計画にした。家事を手伝ってもらうことで明るく笑顔になった例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートで本人の行動の把握や、口頭やノートでの申し送りの確認により、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「やりたい・行きたい」という要望には、日を置かず実行することを心がけ、柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の方が安心して地域で暮らせるよう、近所の方々と交流できるよう、施設に招いたりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が付き添えない場合には職員が対応し、希望するかかりつけ医へ現状を報告している。	それぞれのかかりつけ医を受診している。現在利用はないが、協力医は往診も可能である。毎週、訪問看護師のバイタルと面接チェックで健康維持をしている。看護師職員は薬の管理や発熱時の助言をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人に異常があれば、職場内の看護師に報告し、指示を受けている。また毎週一度訪問看護を受けており、現状把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にも職員が付き添い、病状確認している。また定期的にお見舞い、家族への連絡で状況確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、終末的にどういったケアを望むか、家族本人に希望を取り、出来る限りかなえられるようにしている。	本人・家族は、希望する最期の場所や病氣告知を受けたいか等の要望を「事前指定書」に表し、「急変時対応希望書」では治療や処置の範囲について希望を伝えている。すでに看取りの経験があり、状況による変化を踏まえて、段階的話し合いをもっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習や流行性の感染症の対策を行い、知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	図上訓練や通報訓練、日中、夜間避難訓練の実施。さらに地域の方々と共に避難消火訓練、炊き出し訓練を行った。	防火管理者が毎月の訓練計画を作成する。イメージトレーニングを重ね実施訓練で確認している。訓練には多くの住民の参加協力があり、通報装置には近隣住民の登録もある。「慌てない」など、反省は次に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や、本人の状況に合わせた声掛けや、口調を心がけている。	起床や朝食など、本人のリズムを大切に生活時間を過ごしている。踊りの得意な入居者が花笠音頭を皆に教えたり、選挙の投票に行くなど自分で出来ること・したいことの達成できる喜びを引き出し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がしたいと思ったことを出来る限りかなえたり、選択肢を出して自己決定しやすくするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や、雰囲気に合わせて、活動や作業を行い、気乗りしないようであれば、強制しないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が、それまで使用してきた物を使用してもらい、手の届く範囲に置いたり、一緒に整理するなどし、使いやすくする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや、皮むき、野菜切り、盛り付け等で、共に準備や調整をってもらうだけでなく、片付けも手伝って頂いている。	野菜は自給、米は農家の環境保全米を契約している。季節の恵みを旬で食し、晩酌を楽しむ入居者もいる。誕生会などで外食の機会が多い。給食委員会が献立を作り、栄養士職員が栄養バランスなどをチェックする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、水分量の把握に努めている。摂取しない場合は、その人の嗜好を考え、より多く摂取できるような形で提供したり、時間をおいて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けや、セッティングを行い、洗浄剤の在庫や、歯磨き粉の補充も確認しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望に合わせて対応し、失敗ないか確認を行っている。又清潔を保つため、ウォシュレットを設置した。	夜間、希望でおむつを使用し頻繁にコールしていた方が、トイレ誘導と日中の過ごし方の工夫で改善した例がある。適切なトイレ誘導が、自発的な排泄につながっている。ウォシュレットの刺激は便が出易いと入居者の評判が良い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ウォシュレットの設置や、体操、毎朝の乳製品の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日以上を基本とし、本人の希望、体調を考慮しながら、時間を決めず実施している。	午前中から就寝前まで自由な時刻に入浴することができる。浴槽は檜で、湯船に浸かって見える外の景色は開放感があり寛げる。清潔だけでなく「ゆっくりを大切に」という運営者の思いが感じられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就職時間を設けず、自分のリズムで就寝してもらおう。日中でも起きていることを強制せず、休みたいときに休んでもらう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に本人に薬が渡るよう、名前と服薬の時間を手渡す際に確認し、誤薬がないようにする		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの嗜好品の持ち込みや、趣味・特技を生かしたレクリエーションを企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	他施設よりも外食や、外出の機会が多くあり、四季を感じて頂いたり、その時にしかできない体験をしてもらえるようにしている。	岩手県の狛鼻溪で船下りを楽しむなど、遠方への外出のほか、イルミネーションや季節の花々の見学、地域の祭り等あちこち気軽に出掛けている。被災地を訪ねて、友人に会ったり食事し、土産を買うなどの支援もした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向に合わせて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけたい際には、サポートを行い、はがき等必要なものもそろえるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室やリビングに季節の飾りを共に作ったり、昔ながらの雰囲気を持つ建物により、安心して生活して頂く	高い天井に暖炉や応接セット、畳敷き小上がり、食堂テーブル、オープンキッチンが広いひとつの空間になっている。家具や腰壁の高級感と相まって、浴室や居室・トイレの名札表示の無いことが家庭の佇まいを思わせる。床暖房は適温の自動管理である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席順など互いの性格や、関係性を考え、場合により再検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに制限はなく、使い慣れた物に囲まれて、今まで通り生活して頂く。又不足している物は買い足すようにしている。	午後は居室で過ごす入居者が多く、それぞれ趣味や読書に興じるなど個々の生活が保たれている。居室のトイレは羞恥心に配慮され、ナースコールで職員を呼ぶこともでき安心だ。毎朝の清掃が清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	これまでの生活の経験を活かせるよう、家と同様の一般浴等で残存機能を維持できるようにし、居室内にも枕元に灯りのスイッチを置き、夜間でも安全に歩行できるよう対策している。		